

# 横須賀市自然・人文博物館所蔵 「鎌倉市十二所産甲虫類コレクション」の再検討

内船俊樹\*・齋藤 理\*\*

Revision of the beetle collection of Juniso in Kamakura City in the Yokosuka City Museum

UCHIFUNE Toshiki\* and SAITOH Osamu\*\*

キーワード：甲虫目，三浦半島，再同定，新産地記録

Keywords：Coleoptera, Miura Peninsula, reidentification, new distributional record

横須賀市自然・人文博物館所蔵の「鎌倉市十二所産甲虫類コレクション」の標本1,783点について、追加登録の標本5点を加えて再同定を行った。内船(2017)掲載の目録から54種を除外し、53種を追加したことにより、本コレクションを64科478種1,788点とした。除外種のうち19種および追加種のうち12種は、平野ほか(2018)における神奈川県内の分布情報について更新が必要であることを示唆する。特筆すべき点として、追加種のうちカマクラキイムシ(和名新称)(ゾウムシ科キクイムシ亜科)は日本初記録、カスミゾウムシ(ゾウムシ科ゾウムシ亜科)は神奈川県初記録であることを加える。

The collection of 1,783 specimens as “the beetle collection of Juniso in Kamakura City”, housed in the Yokosuka City Museum was reidentified with the addition of 5 new registered specimens. As a result of removing 54 species and adding 53 species from / to the catalogue (Uchifune, 2017), the collection comprises 1,788 specimens of 64 coleopteran families and 478 species. 19 species of the removed species and 12 species of the added species suggest that the distributional information of these species in Kanagawa prefecture (Hirano *et al.*, 2018) needs to be updated. It should be noted that, in the added species, *Cyclorhipidion armiger* (Schedl) (Curculionidae, Scolytinae) is the first record in Japan and *Lignyodes japonicus* Kojima et Morimoto (Curculionidae, Curculioninae) is the first record in Kanagawa prefecture.

## はじめに

本稿における「鎌倉市十二所産甲虫類コレクション」とは、内船(2017)に収録された甲虫(昆虫綱コウチュウ目)1,783点の標本群である。本コレクションはまた、採集者である秋山秀雄氏が神奈川県昆虫談話会の諸会員の協力のもと同定を行い、同会会誌において「鎌倉市十二所果樹園で採集した甲虫類

(同 カミキリムシ)」という一連の報告(秋山, 2011; 2012; 2013; 2014a; 2014b; 2014c; 2015)の証拠標本としての価値をもつ。

このたび、本コレクションの再検討にあたり分類情報の更新を含む再同定を行ったので、その他の正誤も含めて報告する。前出の秋山氏の一連の報告は、のちに発行された神奈川県産甲虫類の目録(平野ほか, 2018)にも引用されていることから、本報告は

\* 横須賀市自然・人文博物館〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台95

\*\* 神奈川県昆虫談話会

原稿受付 2021年12月1日 横須賀市博物館業績767号

平野ほか (2018) の一部の種について、三浦半島内および神奈川県内の分布情報を更新するものである。あわせて、日本における新産地記録についても報告する。

## 方 法

再同定は著者の一人、齋藤が行った。再同定は、主として林ほか編 (1984)、黒沢ほか編 (1985)、上野ほか編 (1985) を参照したほか、個々の分類群の項に記した総説や原記載、比較標本なども参照した。

## 結 果

再同定によって一部もしくは全ての標本に変更が生じた種について、更新情報を記述するとともに、同定や分類に関するコメントのほか、新産地記録に該当する場合はその旨記す。YCM-I に続けて記す数字は横須賀市自然博物館昆虫資料の登録番号であり、各登録番号に対応する採集データは一部を除き省略したので、内船 (2017) を参照いただきたい。一部、内船 (2017) 発行後に前出の秋山氏から追加寄贈を受けた標本資料については、登録番号に採集データも付して記載することにより、本コレクション目録への追加資料とする。第1-3図には、内船 (2017) 掲載図のうち図の解説が変更されたものを改めて掲載するとともに、再同定に伴って追加した図を掲載し、図の解説を第3-5表に記す。

### オサムシ科 Carabidae

ミツアナアトキリゴミムシ *Parena (Parena) tripunctata* (Bates)

YCM-I 35018 のみ。オオヨツアナアトキリゴミムシ *Parena perforata* (Bates) と再同定した (第1図: 1)。これにより、秋山 (2014a) での報告種は上記のとおり変更される。

### タマキノコムシ科 Leiodidae

セスジクサビラタマキノコムシ *Pseudocolenis hilleri* Reitter

YCM-I 35044-35051 のうち、YCM-I 35049 はヒメハナムシ科のキイロアシナガヒメハナムシ (後出) と再同定した。なお、内船 (2017) では和名および学名を「チャイロヒメタマキノコムシ *Pseudoliodes strigosus* (Portevin)」と記したが、Hoshina (2020)

に従い上記に変更する。

マルムネマルタマキノコムシ *Agathidium (Agathidium) crassicorne* Portevin

YCM-I 35052 に、YCM-I 35071 を追加する。内船 (2017) では和名を「マルムネタマキノコムシ」と記したが、平野ほか (2018) に従い上記に変更する。

### ハネカクシ科 Staphylinidae

ルイスハナムグリハネカクシ *Eusphalerum (Eusphalerum) lewisi* (Cameron)

YCM-I 35054 のみ。Watanabe (1990) を参照して同定された標本との比較によりセマルヨツメハネカクシ *Mannerheimia curtella* (Sharp) と再同定した (第1図: 2)。これにより、秋山 (2015) での報告種は上記のとおり変更される。

ツマキケシデオキノコムシ *Scaphisoma haemorrhoidale* Reitter

YCM-I 35070-35073 のうち、YCM-I 35071 はタマキノコムシ科マルムネマルタマキノコムシ (前出) と再同定した。

### コガネムシ科 Scarabaeidae

アオハナムグリ *Cetonia (Eucetonia) roelofsi* roelofsi Harold

YCM-I 35102, 35103 のうち、YCM-I 35102 はナミハナムグリ *Cetonia (Eucetonia) pilifera pilifera* (Motschulsky) と再同定した (第1図: 3)。なお、アオハナムグリとして YCM-I 35103 を示す (第1図: 4)。

### タマムシ科 Buprestidae

本科の種の同定には大桃・福富 (2013) を参照した。アオグロナガタマムシ *Agrilus viridiobscurus* E. Saunders

YCM-I 35144-35146 のうち、YCM-I 35146 はヒコサンナガタマムシ *Agrilus yamabusi* Miwa et Chûjô と再同定した (第1図: 5)。また、YCM-I 35153 を追加する (第1図: 7)。

マサキナガタマムシ *Agrilus euonymi* Tôyama

YCM-I 35147-35152。いずれもヒコサンナガタマムシ (前出) と再同定した (第1図: 6)。これにより、秋山 (2014a) での報告種は上記のとおり変更される。

シラケナガタマムシ *Agrilus piliosovittatus* E. Saunders

YCM-I 35153 のみ。アオグロナガタマムシ (前出)

と再同定した(第1図:7)。これにより, 秋山(2014a)での報告種は上記のとおり変更される。

クワナガタマムシ *Agrilus komareki* Obenberger

YCM-I 35154-35159。いずれもヒコサンナガタマムシ(前出)と再同定した(第1図:8)。これにより, 秋山(2014a)での報告種は上記のとおり変更される。ヤナギチビタマムシ *Trachys minuta salicis* (Lewis)

YCM-I 35172-35174。いずれもアカガネチビタマムシ(後出)と再同定した(第1図:9)。これにより, 秋山(2014a)での報告種は上記のとおり変更される。ウメチビタマムシ *Trachys inconspicua* E. Saunders

YCM-I 35181, 35182。いずれもコウゾチビタマムシ(後出)と再同定した(第1図:10)。これにより, 秋山(2014a)での報告種は上記のとおり変更される。なお, 内船(2017)では和名を「ウメノチビタマムシ」と記したが, 平野ほか(2018)に従い上記に変更する。

アカガネチビタマムシ *Trachys tsushimae* Obenberger

YCM-I 35183 に, YCM-I 35172-35174, 35184, 35185 を追加する(第1図:9, 11)。

コウゾチビタマムシ *Trachys broussonetiae* Y.

Kurosawa

YCM-I 35184-35190のうち, YCM-I 35184, 35185 はアカガネチビタマムシ(前出)と再同定した(第1図:11)。また, YCM-I 35181, 35182 を追加する(第1図:10)。

ダンダラチビタマムシ *Trachys variolaris* E. Saunders

YCM-I 35191-35200。いずれもサシゲチビタマムシ(後出)と再同定した(第1図:12)。秋山(2014a)には YCM-I 35191-35199 が記されており, 秋山(2014a)での報告種は上記のとおり変更される。なお, YCM-I 35200 (1ex., 28.IV.2014) は秋山(2014a)に記されていない。

サシゲチビタマムシ *Trachys robustus* E. Saunders

YCM-I 35201 に, YCM-I 35191-35200 を追加する(第1図:12)。なお, 内船(2017)では種小名を“*robusta*”と記したが, 平野ほか(2018)に従い上記に変更する。

## コメツキムシ科 Elateridae

ミゾムネチビサビキコリ *Adelocera (Brachylacon) brunneus* (Lewis)

YCM-I 35213-35215, 35593。いずれもイチハシチビサビキコリ *Adelocera ichihashii* Ôhira と再同定した(第1図:13)。秋山(2014a)はミゾ

ムネチビサビキコリとして「1ex., 2.VI.2013」の標本のみを記しているが, 内船(2017)の4個体は, YCM-I 35213 (1ex., 4.VIII.2013), YCM-I 35214 (1ex., 18.V.2014), YCM-I 35215, 35593 (2exs., 1.VI.2014)であるため, 上記の再同定に伴う秋山(2014a)での報告種の変更は行わない。なお, イチハシチビサビキコリは上田(2021)によって鎌倉市から2例記録されている。

クロカネコメツキ *Limoniscus atricolor* (Lewis)

YCM-I 35216 のみ。カネコメツキ属の一種 *Limoniscus* sp. と再同定した(第1図:14)。これにより, 秋山(2014a)での報告種は上記のとおり変更される。

クロツヤヒラタコメツキ *Calambus japonicus* (Fleutiaux)

YCM-I 35217-35220 のうち, YCM-I 35217-35219 はクロツヤハダコメツキ *Hemicrepidius (Hemicrepidius) secessus secessus* (Candèze) (第1図:15), YCM-I 35220 はアカヒゲヒラタコメツキ(後出)(第1図:16)と再同定した。秋山(2014a)はクロツヤヒラタコメツキとして YCM-I 35217-35219 に当たる標本データを記しているが, 内船(2017)にはもう一つ, YCM-I 35220 (1ex., 1.VI.2014) が登録されている。なお, 内船(2017)ではクロツヤヒラタコメツキの種小名を“*japonicas*”と記したが, 上記が正しい。

アカヒゲヒラタコメツキ *Neopristilophus serrifer serrifer* (Candèze)

YCM-I 35221-35223 に, YCM-I 35220 を追加する(第1図:16)。

カバイロコメツキ *Ectinus sericeus sericeus* (Candèze)

YCM-I 35247, 35248。いずれもキバネホソコメツキ *Dolerosomus gracilis* (Candèze) と再同定した(第1図:17)。これにより, 秋山(2015)での報告種は上記のとおり変更される。

オオナガコメツキ *Nipponoelater sieboldi sieboldi* (Candèze)

YCM-I 35249 のみ。オオクシヒゲコメツキ *Tetrigus lewisi* Candèze と再同定した(第1図:18)。これにより, 秋山(2014a)での報告種は上記のとおり変更される。

クリイロアシプトコメツキ *Podeonius aquilis* (Candèze)

YCM-I 35255 のみ。チャイロコメツキ *Haterumelater*

*bicarinatus bicarinatus* (Candèze) と再同定した (第1図:19)。これにより, 秋山 (2014a) での報告種は上記のとおり変更される。なお, 内船 (2017) ではクリイロアシプトコメツキの学名を "*Anchastus aquilis* Candèze" と記したが, 平野ほか (2018) に従い上記に変更する。

クチボンコメツキ *Glyphonyx illepidus* Candèze

YCM-I 35256-35258。いずれもキバネクチボンコメツキ *Glyphonyx bicolor bicolor* Candèze と再同定した (第1図:20)。これにより, 秋山 (2014a) での報告種は上記のとおり変更される。

クシコメツキ *Melanotus legatus legatus* Candèze

YCM-I 35259-35268, 35594-35597 のうち, YCM-I 35259, 35261-35263, 35265, 35266, 35594-35597 はヒラタクシコメツキ *Melanotus (Spheniscosomus) koikei* (Kishii et Ôhira) (第1図:21), YCM-I 35267 はハネナガオオクシコメツキ *Melanotus (Spheniscosomus) japonicus* Ôhira (第1図:22), YCM-I 35268 はヒラタクシコメツキ (後出) と再同定した。

ヒラタクシコメツキ *Melanotus (Melanotus) correctus correctus* Candèze

YCM-I 35269-35276 に, YCM-I 35268 を追加する。

マルクビクシコメツキ *Melanotus fortunei* Candèze

YCM-I 35277 のみ。大平 (1992) を参照しコガタクシコメツキ (後出) と再同定した (第1図:23)。これにより, 秋山 (2014a) での報告種は上記のとおり変更される。

コガタクシコメツキ *Melanotus erythropygus erythropygus* Candèze

YCM-I 35278-35284 に, YCM-I 35277 を追加する (第1図:23)。なお, 内船 (2017) では本種の種小名および亜種小名を "*erythropygus*" と記したが, 上記が正しい。

アカアシオオクシコメツキ *Spheniscosomus cete cete* Candèze

YCM-I 35285 のみ。ハネナガオオクシコメツキ (前出) と再同定した (第1図:24)。これにより, 秋山 (2014a) での報告種は上記のとおり変更される。

コメツキダマシ科 Eucnemidae

ノコヒゲフトコメツキダマシ *Otho spondyloides* (Germar)

YCM-I 35302 のみ。スジヒゲコメツキダマシ *Proxyllobius helleri* Fleutiaux と再同定した (第1

図:25)。これにより, 秋山 (2014a) での報告種は上記のとおり変更される。

ジョウカイボン科 Cantharidae

クロヒメクビボソジョウカイ *Asiopodabrus*

(*Asiopodabrus*) *malthinoides malthinoides* (Kiesenwetter)

YCM-I 35956, 35957 に, YCM-I 36784-36795 を追加する。

クロヒゲナガジョウカイ *Habronychus providus* (Kiesenwetter)

YCM-I 36784-36795。いずれもクロヒメクビボソジョウカイ (前出) と再同定した (第1図:26)。なお, クロヒゲナガジョウカイは秋山による一連の報告には載っていないため, 平野ほか (2018) にも引用されていない。

ニセヒメジョウカイ *Lycocerus lineatipennis* (Wittmer)

YCM-I 35406-35409 のうち, YCM-I 35409 はヒメジョウカイ *Lycocerus japonicus* (Kiesenwetter) と再同定した (第1図:27)。なお, ニセヒメジョウカイとして YCM-I 35408 を掲載する (第1図:28)。なお, 内船 (2017) ではニセヒメジョウカイの学名を "*Athemus (Andrathemus) lineatipennis* Wittmer" と記したが, 平野ほか (2018) に従い上記に変更する。

ヒョウホンムシ科 Ptinidae

ツツガタシバンムシ *Gastrallus affinis* Sakai

YCM-I 35946-35952 のうち, YCM-I 35947, 35948 は Sakai (2007) を参照して同定された標本との比較によりササジツツガタシバンムシ *Gastrallus sasajii* Sakai と再同定した (第1図:29)。ササジツツガタシバンムシは平野ほか (2018) には掲載されていないが, 横浜市などで確認されているほか, フルホンシバンムシ *Gastrallus immarginatus* (Müller) とされている過去の記録もササジツツガタシバンムシである可能性が高い (齋藤, 未発表)。なお, 内船 (2017) ではツツガタシバンムシを含む4種をシバンムシ科 Anobiidae として掲載したが, これをヒョウホンムシ科の1亜科とする平野ほか (2018) に従い, 所属を変更する。

ジョウカイモドキ科 Melyridae

クギヌキヒメジョウカイモドキ *Ebaeus oblongula oblongula* (Kiesenwetter)

YCM-I 35464-35467 に, YCM-I 35468, 35959 を追加する (第1図:30)。なお, 内船 (2017) では本種の学名を "*Ebaeus oblongulus* Kiesenwetter" と記したが, 平野ほか (2018) に従い上記に変更する。

ヒメジョウカイモドキ *Nepachys japonicus*  
(Kiesenwetter)

YCM-I 35468, 35959。いずれもクグヌキヒメジョウカイモドキ (前出) と再同定した (第1図:30)。これにより, 秋山 (2014a) での報告種は上記のとおり変更される。なお, 内船 (2017) ではヒメジョウカイモドキの種小名を "*japonicas*" と記したが, 上記が正しい。

#### ホソヒラタムシ科 Silvanidae

カドコブホソヒラタムシ *Ahasverus advena* (Waltl)

YCM-I 35507-35510。いずれもオオキノコムシ科のケナガマルクスイ *Toramus glisonothoides* (Reitter) と再同定した (第1図:31)。これにより, 秋山 (2014b) での報告種は上記のとおり変更される。

#### チビヒラタムシ科 Laemorphloeidae

ルイスチビヒラタムシ *Notolaemus lewisi* (Reitter)

YCM-I 35513, 35514 のうち, YCM-I 35514 は平野 (2007) を参照しセマルチビヒラタムシ *Xylolestes laevior* (Reitter) と再同定した (第1図:32)。これにより, ルイスチビヒラタムシとして YCM-I 35513 を掲載する (第1図:33)。なお, 内船 (2017) ではルイスチビヒラタムシをヒラタムシ科としたが, 平野ほか (2018) に従い所属を変更する。

#### ヒメハナムシ科 Phalacridae

キイロアシナガヒメハナムシ *Augasmus nipponicus*  
(Hisamatsu)

YCM-I 35521, 35522 に, YCM-I 35049 を追加する。なお, 内船 (2017) では本種の学名を "*Heterolitus nipponicus* Hisamatsu" と記したが, 平野ほか (2018) に従い上記に変更する。

#### テントウムシダマシ科 Endomychidae

*Lycoperdina* 属の一種 *Lycoperdina* sp.

YCM-I 35289 のみ。内船 (2017) の時点では未記載種であったが, その後ホソムネツヤテントウダマシ *Lycoperdina hiranoi* Sogoh et Yoshitomi として記載された種 (平野ほか, 2018) と再同定した (第1図:34)。これにより, 秋山 (2014b) での報告種は上記のとおり変更される。なお, 内船 (2017) では属名を "*Lycoperdima*" と記したが, 上記が正しい。

#### テントウムシ科 Coccinellidae

本科の種の同定には Sasaji (1971) も参照した。

キアシクロヒメテントウ *Stethorus* (*Stethorus*)  
*japonicus* H. Kamiya

YCM-I 35611 のみ。岸本ほか (2013) を参照しハダニクロヒメテントウ *Stethorus* (*Stethorus*) *pusillus* (Herbst) と再同定した (第1図:35)。これにより, 秋山 (2014b) での報告種は上記のとおり変更される。なお, 内船 (2017) ではキアシクロヒメテントウの種小名を "*japonicas*" と記したが, 上記が正しい。

ツマアカヒメテントウ *Scymnus* (*Pullus*)  
*dorcatomoides* Weise

YCM-I 35617-35620。いずれもニセツマアカヒメテントウ (後出) と再同定した (第1図:36)。これにより, 秋山 (2014b) での報告種は上記のとおり変更される。

カワムラヒメテントウ *Scymnus* (*Pullus*)  
*kawamurai* (Ohta)

YCM-I 35621-35632 のうち, YCM-I 35630 はコクロヒメテントウ (後出) と再同定した。なお, 内船 (2017) ではカワムラヒメテントウの亜属名を "(*Pillus*)" と記したが, 上記が正しい。

コクロヒメテントウ *Scymnus* (*Pullus*) *posticalis*  
Sicard

YCM-I 35633-35653 に, YCM-I 35630 を追加する。ニセツマアカヒメテントウ *Scymnus* (*Pullus*)

*rectoides* Sasaji

YCM-I 35654-35660 に, YCM-I 35617-35620 を追加する (第1図:36)。

バイゼヒメテントウ *Scymnus contemtus* (Weise)

YCM-I 35661 のみ。クビアカヒメテントウ *Sasajiscymnus sylvaticus* (Lewis) と再同定した (第2図:1)。これにより, 秋山 (2015) での報告種は上記のとおり変更される。

カバイロヒメテントウ *Scymnus* (*Neopullus*)  
*fuscatus* Boheman

YCM-I 35662 のみ。クロヘリヒメテントウ *Scymnus* (*Neopullus*) *hoffmanni* (Weise) と再同定した (第2図:2)。これにより, 秋山 (2014b) での報告種は上記のとおり変更される。

クロテントウ *Telsimia nigra* (Weise)

YCM-I 35664-35667 のうち, YCM-I 35666 はオトヒメテントウ *Scymnus* (*Neopullus*) *otohime* H. Kamiya と再同定した (第2図:3)。なお, 最近に

なってクロテントウに酷似する2種が関東地方から記録されているが(伊藤ほか, 2018), YCM-I 35664, 35665, 35667については雄交尾器などの特徴からクロテントウであることが確認された。

### ミジンムシ科 Corylophidae

チャイロミジンムシ *Arthrolips rugosus* (Matthews)

YCM-I 35707-35717のうち, YCM-I 35708, 35709, 35714, 35715, 35717はナカグロミジンムシ(後出)と再同定した(第2図:4)。なお, チャイロミジンムシとしてYCM-I 35716を掲載する(第2図:5)。ナカグロミジンムシ *Arthrolips lewisii* Matthews

YCM-I 35718-35720。いずれもベニモンツヤミジンムシ *Clypastraea polita* (Matthews) と再同定した(第2図:6)。また, YCM-I 35708, 35709, 35714, 35715, 35717を追加する。

### ツツキノコムシ科 Ciidae

本科の種の同定には川那部(2003a, 2003b, 2003c, 2004a, 2004b, 2004c, 2004d, 2005)を参照した。

オオツツキノコムシ *Cis boleti* (Scopoli)

YCM-I 35738-35746。いずれもキタツツキノコムシ *Cis seriatopilus* (Motschulsky) と再同定した(第2図:7)。これにより, 秋山(2014b)での報告種は上記のとおり変更される。なお, 内船(2017)ではオオツツキノコムシの学名を“*Cis boleti polypore* Chûjô”と記したが, 平野ほか(2018)に従い上記に変更する。

ハバビロツツキノコムシ *Cis brevipennis* Nakane et Nobuchi

YCM-I 35747のみ。ミツアナツツキノコムシ(後出)と再同定した(第2図:8)。これにより, 秋山(2014b)での報告種は上記のとおり変更される。

ミカゲツツキノコムシ *Cis mikagensis* Nobuchi et Wada

YCM-I 35748のみ。トウホクツツキノコムシ *Cis fukudai* Chûjô と再同定した(第2図:9)。これにより, 秋山(2014b)での報告種は上記のとおり変更される。

ミツアナツツキノコムシ *Cis seriatulus* Kiesenwetter

YCM-I 35749のみ。トウホクツツキノコムシ(前出)と再同定した(第2図:10)。また, YCM-I 35747を追加する(第2図:8)。

フタツノツツキノコムシ *Neoenearthron*

*bicarinaratum* Miyatake

YCM-I 35794-35798。いずれもフタツノツツツ

キノコムシ *Euxestocis bicornutus* Miyatake と再同定した(第2図:11)。これにより, 秋山(2014b)での報告種は上記のとおり変更される。

ツヤツツキノコムシ *Octotemnus laminifrons* (Motschulsky)

YCM-I 35962のみ。ヒメツヤツツキノコムシ *Octotemnus parvulus* Miyatake と再同定した(第2図:12)。これにより, 秋山(2014b)での報告種は上記のとおり変更される。

### ナガクチキムシ科 Melandryidae

オオクロホソナガクチキ *Phloiotrya* (*Phloiotrya*) *bellicosa* Lewis

YCM-I 35806-35808。いずれもクロホソナガクチキ *Phloiotrya* (*Phloiotrya*) *rugicollis* Marseul と再同定した(第2図:13)。これにより, 秋山(2014b)での報告種は上記のとおり変更される。なお, 内船(2017)ではオオクロホソナガクチキの学名を“*Phloiotrya bellicosa* Lewis”と記したが, 平野ほか(2018)に従い上記に変更する。

フタモンヒメナガクチキ *Microtonus dimidiatus* (Marseul)

YCM-I 35815-35822。いずれもミヤケヒメナガクチキ *Symphora bunnea brunnea* (Marseul) と再同定した(第2図:14)。

### ハナノミ科 Mordellidae

オナガクロハナノミ *Mordella onaga* Nomura

本種と再同定された未登録の標本を, YCM-I 32773 (1ex., 1.VI.2014, 「クロヒメハナノミ」の同定ラベル)として登録する(第2図:15)。

### ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

本科の種の同定には主に秋田・益本(2016)を参照した。

ハロルドアオバクチキムシ *Allecula* (*Allecula*) *aeneipennis* Harold

YCM-I 35833, 35834。いずれもナミウスイロクチキムシ *Borboresthes bilamellata* (Marseul) と再同定した(第2図:16)。なお, 内船(2017)ではハロルドアオバクチキムシの和名を「アオバクチキムシ」と記したが, 平野ほか(2018)に従い上記に変更する。また, 秋山(2014b)には, YCM-I 35833, 35834のほか8個体の採集データ(1ex., 20.VI.2010; 2exs., 2.VI.2013; 5exs., 22.VI.2013)が報告されている。

## ニセクビボソムシ科 Aderidae

ホソニセクビボソムシ *Pseudanidorus rubriventris*  
(Marseul)

YCM-I 35940 のみ。Saitô and Young (2015) を参照しキバネナガニセクビボソムシ *Ariotus takedai* M. Saitô et Young と再同定した (第2図:17)。これにより, 秋山 (2014b) での報告種は上記のとおり変更される。なお, 内船 (2017) ではホソニセクビボソムシの種小名を“*rubrivestis*”と記したが, 平野ほか (2018) に従い上記に変更する。

## ハムシ科 Chrysomelidae

本科の種の同定には主に木元・滝沢 (1994) を参照した。

ヒメカメノコハムシ *Cassida (Cassida) piperata*

Hope

YCM-I 36357, 36358。いずれも上翅側縁後半に黒紋を欠く特徴からイノコヅチカメノコハムシ *Cassida japana* Baly と再同定した (第2図:18)。イノコヅチカメノコハムシは長らくヒメカメノコハムシのシノニムとされてきたが, 現在では別種として区別されている (平野ほか, 2018)。これにより, 秋山 (2014c) での報告種は上記のとおり変更される。セモンジンガサハムシ *Cassida crucifera* (Kraatz)

YCM-I 36360-36362 に, 本種と再同定された未登録の標本を YCM-I 32774 (1ex., 1.VI.2014, 「ヒメカメノコハムシ」の同定ラベル) として追加, 登録する。なお, 内船 (2017) では本種の学名を“*Cassida (Taiwania) versicolor* (Boheman)”と記したが, 平野ほか (2018) に従い上記に変更する。

コガタルリハムシ *Gastrophysa atrocyanea*

Motschulsky

YCM-I 36363 のみ。カミナリハムシ (後出) と再同定した (第2図:19)。これにより, 秋山 (2014c) での報告種は上記のとおり変更される。

カミナリハムシ *Altica aenea* (Olivier)

YCM-I 36409-36415 のうち, YCM-I 36409 はクワノミハムシ (後出) (第2図:20), YCM-I 36410-36415 は末永 (2021) を参照しアカバナカミナリハムシ *Altica oleracea* (Linnaeus) と再同定した (第2図:21)。なお, 内船 (2017) ではカミナリハムシの学名を“*Altica cyanea* (Weber)”と記したが, 平野ほか (2018) や末永 (2021) に従い上記に変更する。また, YCM-I 36363 を追加する (第2図:19)。クワノミハムシ *Luperomorpha funesta* (Baly)

YCM-I 36436 のみ。ガマズミトビハムシ *Trachyaphthona obscura* (Jacoby) と再同定した (第2図:22)。また, YCM-I 36409 を追加する (第2図:20)。

オオバコトビハムシ *Longitarsus scutellaris* (Rey)

YCM-I 36437, 36438 のうち, YCM-I 36437 はカウムネアシナガトビハムシ *Longitarsus quadraticollis* Jacoby と再同定した (第2図:23)。

キアシノミハムシ *Luperomorpha tenebrosa* (Jacoby)

YCM-I 36331-36333。いずれもガマズミトビハムシ (前出) と再同定した (第2図:24)。これにより, 秋山 (2015) での報告種は上記のとおり変更される。ヒゲナガルリマルノミハムシ *Hemipyxis*

*plagioderoides* (Motschulsky)

YCM-I 36439-36493 に, YCM-I 36453 を追加する (第2図:26)。

キイロタマノミハムシ *Sphaeroderma unicolor*

Kimoto

YCM-I 36446-36450。いずれもヒロアシタマノミハムシ *Sphaeroderma tarsatum* Baly と再同定した (第2図:25)。

ルリマルノミハムシ *Nonarthra cyanea* Baly

YCM-I 36453 のみ。ヒゲナガルリマルノミハムシ (前出) と再同定した (第2図:26)。

バラルリツツハムシ *Cryptocephalus approximates*  
Baly

YCM-I 36472-36483 のうち, YCM-I 36472, 36476, 36481 はキアシルリツツハムシ *Cryptocephalus fortunatus* Baly と再同定した (第2図:27)。これにより, バラルリツツハムシとして YCM-I 35473 を掲載する (第2図:28)。

ミズキコブハムシ *Chlamisus interjectus* (Baly)

YCM-I 36492-36494 に, YCM-I 36498 を追加する。

ツツジコブハムシ *Chlamisus laticollis* (Chûjô)

YCM-I 36495-36498 のうち, YCM-I 36498 はミズキコブハムシ (前出) と再同定した。

ヒメキバネサルハムシ *Pagria signata* (Motschulsky)

YCM-I 36509 のみ, 今坂・南 (2008) を参照しツヤキバネサルハムシ *Pagria grata* (Baly) と再同定した (第2図:29)。同じくツヤキバネサルハムシと再同定された未登録の標本を, YCM-I 32775 (1ex., 22.IX.2013, 「ヒメキバネサルハムシ」の同定ラベル) として登録する。なお, 内船 (2017) の図版 E にてヒメキバネサルハムシの図とムナゲクロサルハム

シの図とを取り違えており、正しくは前者が図版 E の図番号 66、後者が同 67 である。また、日本産ヒメキバネサルハムシ *Pagria signata* (Motschulsky) とされたものは近縁他種へ再編された (平野ほか, 2018)。

クロオビカサハラハムシ *Hyperaxis fasciata* (Baly)

YCM-I 36514-36523, 365552 のうち、YCM-I 36552 はマダラアラゲサルハムシ (後出) と再同定した。

マダラアラゲサルハムシ *Demotina fasciculata* Baly

YCM-I 36524-36528, 36530-36533 に、YCM-I 36552 を追加する。なお、内船 (2017) は本種の種小名を “*fasciculata*” としたが、上記が正しい。

*Demotina* 属の一種 *Demotina* sp.

YCM-I 36534-36536 のうち、YCM-I 36535 はアラゲサルハムシ *Demotina squamosa* Isono と再同定した。

カサハラハムシ *Demotina modesta* Baly

YCM-I 36538-36540。いずれもアラゲサルハムシ (前出) と再同定した (第 2 図 : 30)。これにより、秋山 (2014c) での報告種は上記のとおり変更される。

ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae

セマルヒゲナガゾウムシ *Phloeobius gibbosus* Roelofs

YCM-I36562 のみ、ササセマルヒゲナガゾウムシ *Phloeobius stenus* Jordan と再同定した (第 2 図 : 31)。これにより、秋山 (2014c) での報告種は上記のとおり変更される。なお、内船 (2017) は本種の属名を “*Phloeobinus*” としたが、上記が正しい。

オトシブミ科 Attelabidae

ヒメクロオトシブミ *Compsapoderus*

(*Compsapoderus*) *erythrogaster* (Snellen Van Vollenhoven)

YCM-I 36591-36595 のうち、YCM-I 36594, 36595 はエゴツルクビオトシブミ (後出) と再同定した (第 2 図 : 32)。これにより、ヒメクロオトシブミとして YCM-I 36592 を掲載する (第 2 図 : 33)。なお、内船 (2017) はヒメクロオトシブミの学名を “*Apoderus* (*Compsapoderus*) *erythrogaster* Snellen Van Vollenhoven” としたが、平野ほか (2018) に従い上記に変更する。

エゴツルクビオトシブミ *Cycnotrachelus roelofsi* (Harold)

YCM-I 36599 に、YCM-I 36594, 36595 を追加する (第 2 図 : 32)。

イタヤハマキチョッキリ *Byctiscus* (*Byctiscus*)

*venustus* (Pascoe)

YCM-I 36603, 36604 のうち、YCM-I 36604 はド口ハマキチョッキリ *Byctiscus congener* (Jekel) と再同定した (第 2 図 : 34)。なお、本種と次種は内船 (2017) にて「チョッキリゾウムシ科 Rhynchitidae」としたが、同科は平野ほか (2018) に従ってオトシブミ科の 1 亜科へと変更する。

コナライクビチョッキリ *Deporaus*

(*Roelofsideporaus*) *unicolor* (Roelofs)

YCM-I 36605-36608 のうち、YCM-I 36606-36608 はオオメイクビチョッキリ *Deporaus* (*Roelofsideporaus*) *hartmanni* (Voss) と再同定した (第 2 図 : 35)。これにより、コナライクビチョッキリとして YCM-I 36605 を掲載する (第 2 図 : 36)。なお、内船 (2017) はコナライクビチョッキリの亜属名を “(*Deporaus*)” としたが、平野ほか (2018) に従い上記に変更する。

ゾウムシ科 Curculionidae

アトジロカレキゾウムシ *Acicnemis dorsonigrita*

Voss

YCM-I 36629 のみ、ナカスジカレキゾウムシ *Acicnemis suturalis* Roelofs と再同定した (第 3 図 : 1)。これにより、秋山 (2015) での報告種は上記のとおり変更される。

*Cryptorhynchus* 属の一種 *Cryptorhynchus* sp.

YCM-I 36558 のみ、*Caenocryptorrhynchus* 属の一種 *Caenocryptorrhynchus* sp. と再同定した (第 3 図 : 2)。なお、内船 (2017) は “*Cryptorhynchus*” を “*Cryotorhynchus*” と表記したが、前者が正しい。

ワシバナヒメキクイゾウムシ *Phloeophagosoma*

(*Amorphphrynchus*) *curvirostre* Wollaston

YCM-I 35062, 35063, 36559 のうち、YCM-I 35062, 35063 はメダカケブカクイゾウムシ (後出) (第 3 図 : 3)、YCM-I 36559 は森本 (1983, 1985) を参照し *Oxydema* 属の一種 *Oxydema* sp. と再同定した (第 3 図 : 4)。秋山 (2014c) には YCM-I 36559 のみが記されており、秋山 (2014c) での報告種は上記のとおり変更される。なお、YCM-I 35062, 35063 (2exs., 1.VI.2014) は秋山 (2014c) に記されていない。

メダカケブカクイゾウムシ *Pholidoforus*

*squamosus* Wollaston

YCM-I 36676, 36677 に、YCM-I 35062, 35063 を追加する (第 3 図 : 3)。

チビデオゾウムシ *Acalyptus carpini* (Fabricius)

YCM-I 36687 のみ、Kojima and Morimoto (2003)



を参照しカスミゾウムシ *Lignyodes (Lignyodes) japonicus* Kojima et Morimoto と再同定した (第3図:5)。これにより, 秋山 (2014c) での報告種は上記のとおり変更される。Kojima and Morimoto (2003) によれば, カスミゾウムシを含むカスミゾウムシ亜族 *Lignyodina* はこれまで北アメリカとヨーロッパ以外の地域からは知られておらず, 紀伊半島から記載された本種が, このグループとしてはユーラシア大陸東部に分布する唯一の種であるという。原記載以後の記録は知られていないようで, 神奈川県はもとより東日本から初めての記録になると思われる。したがって, 採集データを次に示す:

1ex., 鎌倉市十二所, 22.IX.2013, 秋山秀雄採集  
(YCM-I 36687)

イヌビワシギゾウムシ *Curculio funebris* (Roelofs)

YCM-I 36692 に, YCM-I 36695 を追加する (第3図:6)。

ヤノシギゾウムシ *Curculio yanoi* Morimoto

YCM-I 36693-36695 のうち, YCM-I 36695 はイヌビワシギゾウムシ (前出) と再同定した (第3図:6)。これにより, ヤノシギゾウムシとして YCM-I 36694 を掲載する (第5図:7)。

ニッポントゲムネサルゾウムシ *Coelioderes nipponicus* (Korotyaev)

YCM-I 36714 のみ。伊藤 (2021) を参照し *Coelioderes* sp. (ミズキトゲムネサルゾウムシ) と再同定した (第3図:8)。伊藤 (2021) によれば, ニッポントゲムネサルゾウムシは従来, ミズキトゲムネサルゾウムシと呼ばれる近似の未記載種とあべこべに認識されていたという。なお, 内船 (2017) ではニッポントゲムネサルゾウムシの種小名を “*latipes*” と記したが, 上記が正しい。

ケブカクチプトゾウムシ *Lepidepistomodes fumosus* (Faust)

YCM-I 36744, 36745 に, 本種と再同定された未登録の標本を YCM-I 32776 (1ex., 1.VI.2014, 「カシワクチプトゾウムシ」の同定ラベル) として追加, 登録する。なお, 内船 (2017) は本種の属名を “*Myllocerus*” としたが, 平野ほか (2018) に従い上記に変更する。

カシワクチプトゾウムシ *Nothomylllocerus griseus* (Roelofs)

YCM-I 35988-35991, 36082, 36159, 36500, 36512, 36513, 36529, 36680, 36746-36756 のうち, YCM-I 36756 はツノヒゲボソゾウムシ (後出) と再同定し

た。なお, 内船 (2017) はカシワクチプトゾウムシの学名を “*Myllocerus griseus* Roelofs” としたが, 平野ほか (2018) に従い上記に変更する。

ツノヒゲボソゾウムシ *Phyllobius (Diallobius) incomptus* Sharp

YCM-I 36762-36770 に, YCM-I 36756 のほか本種と再同定された未登録の標本を YCM-I 32777 (1ex., 1.VI.2014, 「ケブカクチプトゾウムシ」の同定ラベル) として追加, 登録する。なお, 平野ほか (2018) に従い上記のように亜属名を挿入する。

ヒバノコキクイムシ *Phloeosinus lewisi* Chapuis

YCM-I 36776 のみ。ユメノキクイムシ *Phloeosinus pulchellus* Blandford と再同定した (第3図:9)。これにより, 秋山 (2015) での報告種は上記のとおり変更される。なお, 内船 (2017) ではヒバノコキクイムシを含む5種を「キクイムシ科 Scolytidae」として掲載したが, これをゾウムシ科の1亜科とする平野ほか (2018) に従い, 所属を変更する。

クロケブカキクイムシ *Dryocoetops moestus* (Blandford)

YCM-I 36778-36880。本種は, 内船 (2017) において「コーヒーキクイムシ *Taphrorychus coffeae* (Eggers)」, 平野ほか (2018) では「コーヒーキクイムシ *Dryocoetops coffeae* (Eggers)」とされたが, Beaver *et al.* (2019) に従い上記に変更する (第3図:10)。秋山 (2014c) には YCM-I 36778 のみが記されており, 秋山 (2014c) での報告種は上記のとおり変更される。なお, YCM-I 36779 (1ex., 18.V.2014), 36880 (1ex., 1.VI.2014) は秋山 (2014c) に記されていない。

トドマツオオキクイムシ *Euwallacea validus* (Eichhoff)

YCM-I 36781 のみ。Smith *et al.* (2020) を参照しアイノキクイムシ *Euwallacea interjectus* (Blandford) と再同定した (第3図:11)。これにより, 秋山 (2014c) での報告種は上記のとおり変更される。なお, 内船 (2017) はトドマツオオキクイムシの学名を “*Xyleborus validus* Eichhoff” としたが, 平野ほか (2018) に従い上記に変更する。

ウラジロガシノキクイムシ *Cyclorhipidion pelliculosum* (Eichhoff)

YCM-I 36782, 36783。いずれも Smith *et al.* (2020) を参照しカマクラキクイムシ (和名新称) *Cyclorhipidion armiger* (Schedl) と再同定した (第3図:12)。秋山 (2014c) には YCM-I 36782 の

みが記されており、秋山 (2014c) での報告種は上記のとおり変更される。なお、YCM-I 36783 (1ex., 1.VI.2014) は秋山 (2014c) に記されていない。カマクラキクイムシは体長 2.6-3.3 mm, 同属他種に比べ相対的に上翅が短く、上翅背面は鞍状に凹み、上翅端に 2 対の歯状突起、上翅斜面部第 1 間室に各 4 個の瘤状突起をもつことなどを特徴とする。中国 (福建省, 江西省, 四川省, 雲南省), 台湾, タイ, ベトナムから記録されているが、日本からは未記録であった。また、内船 (2017) はウラジロガシノキクイムシの学名を "*Xyleborus pelliculosus* Eichhoff" としたが、平野ほか (2018) に従い上記に変更する。カマクラキクイムシ (和名新称) は日本において初めての記録になると思われることから、採集データを次に示す:

1ex., 鎌倉市十二所, 2.VI.2013, 秋山秀雄採集  
(YCM-I 36782)

1ex., 鎌倉市十二所, 1.VI.2014, 秋山秀雄採集  
(YCM-I 36782)

### まとめ

今回の再検討により、内船 (2017) 掲載種から除外される 52 種と、内船 (2017) 掲載種へ追加される 50 種を、それぞれ第 1 表に示す。科レベルでは、オナガクロハナノミと同定された追加登録標本によりハナノミ科が増えた一方、別科別種と再同定されたカドコブホソヒラタムシの除外によりホソヒラタムシ科が減った。これにより、「鎌倉市十二所産甲虫類コレクション」は 65 科 479 種 1,788 点となった。なお、平野ほか (2018) の科レベルの再編結果を反映し、1 科の増 (ヒラタムシ科の一部をチビヒラタムシ科に独立) と 2 科の減 (チョッキリゾウムシ科をオトシブミ科に編入、キクイムシ科をゾウムシ科に編入) を行った。

本報冒頭で触れたとおり、「鎌倉市十二所産甲虫類コレクション」は、平野ほか (2018) に引用されている秋山 (2011; 2012; 2013; 2014a; 2014b; 2014c;

2015) の証拠標本としての価値をもつことから、本コレクションの再同定にともなう内船 (2017) の掲載種の削除/追加は、平野ほか (2018) における一部の種の神奈川県内の分布について更新を必要とする。すなわち、他の引用がない場合や秋山 (2011; 2012; 2013; 2014a; 2014b; 2014c; 2015) で報告された標本が内船 (2017) に全て収録されている種に限るが、本報は次のとおり、除外種のうち 19 種ならびに追加種のうち 12 種は、平野ほか (2018) における神奈川県内の分布情報について更新を示唆する。

神奈川県における分布を削除する種: バイゼヒメテントウ, ニッポントゲムネサルゾウムシ

三浦半島における分布を削除する種: ミツアナアトキリゴミムシ, クワナガタマムシ, ヤナギチビタマムシ, ダンダラチビタマムシ, クロカネコメツキ, ノコヒゲフトコメツキダマシ, カドコブホソヒラタムシ, カバイロヒメテントウ, オオツツキノコムシ, ハバビロツツキノコムシ, ミカゲツツキノコムシ, フタツノツツキノコムシ, ホソニセクビソムシ, セマルヒゲナガゾウムシ, アトジロカレキゾウムシ, チビデオゾウムシ, ウラジロガシノキクイムシ

三浦半島における分布を追加する種: イチハシチビサビキコリ, スジヒゲコメツキダマシ, ハダニクロヒメテントウ, フタツノツツツキノコムシ, ヒメツヤツツキノコムシ, キバネナガニセクビソムシ, カクムネアシナガトビハムシ, ヒロアシタマノミハムシ, アラゲサルハムシ, オオメイクビチョッキリ, カスミゾウムシ, カマクラキクイムシ

本報ではまた、カマクラキクイムシ (和名新称) を日本初記録種として、カスミゾウムシを神奈川県初記録として、それぞれ挙げており、後者は東日本でも初の記録となる可能性がある。

三浦半島昆虫研究会の中村進一氏には、本資料調査において多大なご協力をいただいた。神奈川県昆虫談話会の秋山秀雄氏には既発表データと当博物館収

右ページ第 1 表の脚注:

\* 科内掲載種が 1 種のみだったので除外される科; \*\* 追加された種にともなって新規追加された科; \*\*\* 平野ほか (2018) に沿ってゾウムシ科の亜科とした。

注 1 秋山 (2014a) の掲載標本が内船 (2017) にないため秋山 (2014a) の記録は変更しない; 注 2 平野ほか (2018) には未掲載だが上田 (2021) により鎌倉市から記録された; 注 3 平野ほか (2018) には未掲載だが三浦半島からは初の記録; 注 4 平野ほか (2018) において神奈川県唯一かつ関東地方初の記録として引用された; 注 5 神奈川県 (おそらく東日本) 初の記録; 注 6 平野ほか (2018) には未掲載だが三浦半島からは初の記録; 注 7 平野ほか (2018) では「コーヒーキクイムシ」と表記;

注 8 日本初の記録であり和名新称。

第1表 本報の再検討により、内船(2017)掲載種から除外された種和名ならびに追加される種和名。カッコ内は内船(2017)での表記。除外/追加により平野ほか(2018)の「三浦半島」の分布記録に変更が生じる和名に下線を付す。

科和名	除外された種	追加された種
オサムシ科	ミツアナアトキリゴミムシ	オオヨツアナアトキリゴミムシ
タマキノコムシ科	セスジクサビラタマキノコムシ (チャイロヒメタマキノコムシ)	—
ハネカクシ科	ルイスハナムグリハネカクシ	セマルヨツメハネカクシ
コガネムシ科	—	ナミハナムグリ
タマムシ科	マサキナガタマムシ シラケナガタマムシ クワナガタマムシ ヤナギチビタマムシ ウメチビタマムシ (ウメノチビタマムシ) ダンダラチビタマムシ	ヒコサンナガタマムシ
コメツキムシ科	ミゾムネチビサビキコリ <sup>注1</sup> クロカネコメツキ クロツヤヒラタコメツキ カバイロコメツキ オオナガコメツキ クリイロアシプトコメツキ クチボソコメツキ マルクビクシコメツキ アカアシオオクシコメツキ ノヒゲフトコメツキダマシ	イチハシチビサビキコリ <sup>注2</sup> カネコメツキ属の一種 クロツヤハダコメツキ キバネホソコメツキ オオクシヒゲコメツキ チャイロコメツキ キバネクチボソコメツキ ヒラタクシコメツキ ハネナガオオクシコメツキ スジヒゲコメツキダマシ
コメツキダマシ科	クロヒゲナガジョウカイ	ヒメジョウカイ
ジョウカイボン科	—	ササジツツガタシバンムシ <sup>注3</sup>
ヒョウホンムシ科	—	—
ジョウカイモドキ科	ヒメジョウカイモドキ	—
ホソヒラタムシ科*	カドコブホソヒラタムシ	—
チビヒラタムシ科	—	セマルチビヒラタムシ
オオキノコムシ科	—	ケナガマルキスイ
テントウムシダマシ科	<i>Lycoperdima</i> 属の一種	ホソムネツヤテントウダマシ
テントウムシ科	キアシクロヒメテントウ ツマアカヒメテントウ バイゼヒメテントウ <sup>注4</sup> カバイロヒメテントウ	ハダニクロヒメテントウ クビアカヒメテントウ クロヘリヒメテントウ オトヒメテントウ
ミジンムシ科	—	ベニモンツヤミジンムシ
ツツキノコムシ科	オオツツキノコムシ ハバビロツツキノコムシ ミカゲツツキノコムシ フタツノツツキノコムシ ツヤツツキノコムシ	キタツツキノコムシ トウホクツツキノコムシ フタツノツヤツツキノコムシ ヒメツヤツツキノコムシ
ナガクチキムシ科	オオクロホソナガクチキ フタモンヒメナガクチキ	クロホソナガクチキ ミヤケヒメナガクチキ
ハナノミ科**	—	オナガクロハナノミ
ゴミムシダマシ科	ハロルドアオバクチキムシ (アオバクチキムシ)	ナミウスイロクチキムシ
ニセクビボソムシ科	ホソニセクビボソムシ	キバネナガニセクビボソムシ
ハムシ科	ヒメカメノコハムシ コガタルリハムシ キアシノミハムシ キイロタマノミハムシ ルリマルノミハムシ ヒメキバネサルハムシ <i>Demotina</i> 属の一種 カサハラハムシ	イノコツチカメノコハムシ アカバナカミナリハムシ ガマズミトビハムシ カクムネアシナガトビハムシ ヒロアシタマノミハムシ キアシルリツツハムシ ツヤキバネサルハムシ アラゲサルハムシ
ヒゲナガゾウムシ科	セマルヒゲナガゾウムシ	ササセマルヒゲナガゾウムシ
オトシブミ科	—	ドロハマキチョッキリ オオメイクビチョッキリ
ゾウムシ科	アトジロカレキゾウムシ <i>Cryptorhynchus</i> 属の一種	ナカスジカレキゾウムシ <i>Caenocryptorhynchus</i> 属の一種 <i>Oxydema</i> 属の一種
	ワシバナヒメキイゾウムシ チビデオゾウムシ ニッポントゲムネサルゾウムシ	カスミゾウムシ <sup>注5</sup> ミズキトゲムネサルゾウムシ <sup>注6</sup>
(キクイムシ科)***	ヒバノコキクイムシ コーヒーキクイムシ トドマツオオキクイムシ ウラジログアシノキクイムシ	ユメノキクイムシ クロケブカキクイムシ <sup>注7</sup> アイノキクイムシ カマクラキクイムシ <sup>注8</sup>

蔵資料との再照合についてご助言をいただいた。東京大学大学院の池田貴史氏ならびに三浦半島昆虫研究会の堀井邦弘氏には内船(2017)の正誤に関する情報を提供いただいた。各氏にお礼申し上げる。

なお、第2表には、誤表記など再同定に伴う変更以外の、内船(2017)に対する正誤表を付す。

## 文 献

- 秋田勝己・益本仁雄 2016. 日本産ゴミムシダマシ大図鑑. 302 ページ. むし社, 東京.
- 秋山秀雄 2011. 2010 年度に鎌倉市十二所果樹園で採集したカミキリムシ. 神奈川虫報, (173): 65-67.
- 秋山秀雄 2012. 2011 年度に鎌倉市十二所果樹園で採集したカミキリムシ. 神奈川虫報, (176): 57-58.
- 秋山秀雄 2013. 2012 年度に鎌倉市十二所果樹園で採集したカミキリムシ. 神奈川虫報, (179): 46-47.
- 秋山秀雄 2014a. 鎌倉十二所果樹園で採集した甲虫類 1. 神奈川虫報, (182): 1-8.
- 秋山秀雄 2014b. 鎌倉十二所果樹園で採集した甲虫類 2. 神奈川虫報, (183): 35-42.
- 秋山秀雄 2014c. 鎌倉十二所果樹園で採集した甲虫類 3. 神奈川虫報, (184): 8-14.
- 秋山秀雄 2015. 2014 年に鎌倉市十二所果樹園で新たに採集した甲虫類. 神奈川虫報, (186): 21-23.
- Beaver R. A., Smith S. M. and Sanguansub S. 2019. A review of the genus *Dryocoetiops* Schedl, with new species, new synonymy and a key to species (Coleoptera: Curculionidae: Scolytinae). *Zootaxa*, 4712(2): 236-250.
- 林 匡夫・森本 桂・木元新作 (編著) 1984. 原色日

- 本甲虫図鑑 (IV). 438 ページ. 保育社, 大阪.
- 平野幸彦 2007. 日本産チビヒラタムシ科について. 神奈川虫報, (160): 15-33.
- 平野幸彦・秋山秀雄・松原 豊・守屋博文・西川正明・野津 裕・高橋和弘・滝沢春雄・露木繁雄・渡辺崇 2018. コウチュウ目 Coleoptera. 神奈川県昆虫誌 2018: 227-639. 神奈川昆虫談話会, 小田原.
- Hoshina H. 2020. Review of the Genus *Pseudocolenis* Reitter, 1885 (Coleoptera: Leiodidae) from Japan. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 26(2): 305-312.
- 今坂正一・南 雅之 2008. 日本産 *Pagria* (キバネサルハムシ属) について一付. 東南アジア産数種の記録一. 佐賀の昆虫, (44): 253-263.
- 伊藤 淳 2021. 東京都稲城市の甲虫類 (9). 神奈川虫報, (205): 4-12.
- 伊藤 淳・阪本優介・歳清勝晴 2018. 日本初記録のシセンクロテントウ (新称) を含む本州産チビクチビルテントウ属 3 種の記録. さやばねニューシリーズ, (29): 13-16.
- 川那部 真 2003a. 日本産ツツキノコムシ科検索図説 I. 甲虫ニュース, (142): 1-6.
- 川那部 真 2003b. 日本産ツツキノコムシ科検索図説 II. 甲虫ニュース, (143): 1-6.
- 川那部 真 2003c. 日本産ツツキノコムシ科検索図説 III. 甲虫ニュース, (144): 1-6.
- 川那部 真 2004a. 日本産ツツキノコムシ科検索図説 IV. 甲虫ニュース, (145): 1-5.
- 川那部 真 2004b. 日本産ツツキノコムシ科検索図説 V. 甲虫ニュース, (146): 1-5.
- 川那部 真 2004c. 日本産ツツキノコムシ科検索図説

第2表 本文に示した再同定に伴う変更以外の、内船(2017)に対する正誤表。

内船(2017)における該当部分	誤	正
p. 7 「オオメコヒゲナガハナノミ」の種小名	<i>ramie</i>	<i>ramea</i>
p. 9 「アカゲヒラタコメツキ」の和名	アカゲ〜	アカヒゲ〜
p. 10 「エノキコメツキダマシ」の命名者	Fleutiaus	Fleutiaux
p. 12 「クロツマキジョウカイ」の種小名	<i>japonicus</i>	<i>japonicus</i>
p. 12 「ヒメカツオブシムシ」の種小名	<i>japonicus</i>	<i>japonicus</i>
p. 13 「ケシジョウカイモドキ」の属名	<i>Pasytes</i>	<i>Dasytes</i>
p. 14 「ヨツボシケシキスイ」の種小名	<i>japonicus</i>	<i>japonius</i>
p. 14 「ヨツボシオオキスイ」の種小名	<i>gemmate</i>	<i>gemmate</i>
p. 17 「ハレルヤヒメテントウ」の和名*	ハレルヤ〜	ハレヤ〜
p. 21 「ズビロキマワリモドキ」**		
p. 28 「ヒゲナガアラハダノミハムシ」の和名	〜ノミハムシ	〜トビハムシ
p. 31 「カシルリオトシブミ」の種小名	<i>splendus</i>	<i>splendidus</i>

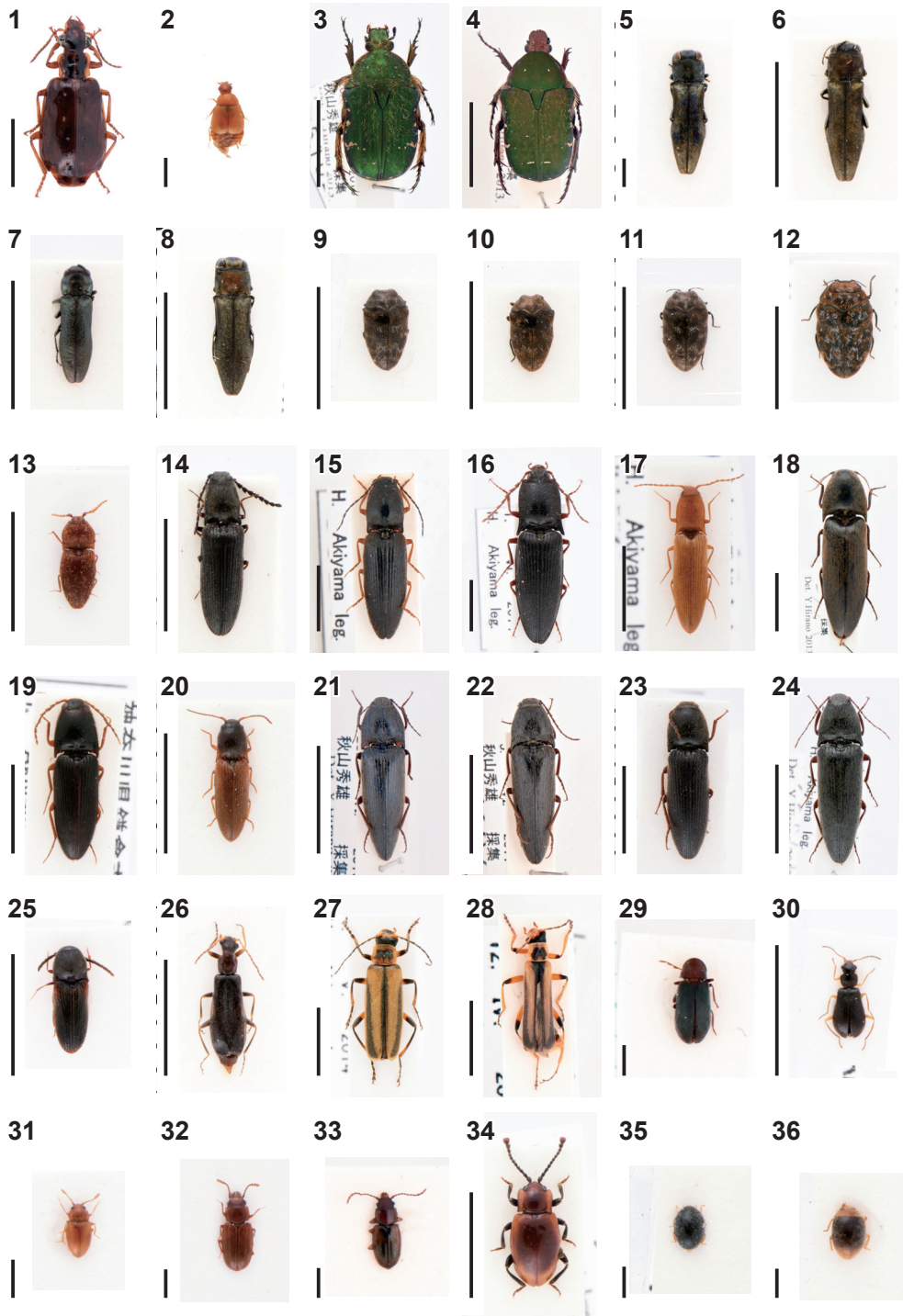
\* 属の所属変更により *Pseudoscyrmus hareja* (Weise) は、平野ほか(2018)において *Sasajiscyrmus hareja* (Weise) と表記。

\*\* ズビロキマワリモドキ *Gnesis helopioides helopioides* Pascoe は、平野ほか(2018)においてヒガシズビロキマワリモドキ *Gnesis fujitai* Akita et Masumoto と表記。

- VI. 甲虫ニュース, (147): 1-6.
- 川那部 真 2004d. 日本産ツツキノコムシ科検索図説 VII. 甲虫ニュース, (148): 1-5.
- 川那部 真 2005. 日本産ツツキノコムシ科検索図説 VIII. 甲虫ニュース, (149): 13-17.
- 木元新作・滝沢春雄 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 539 ページ. 東海大学出版会, 秦野.
- 岸本英成・望月雅俊・北野峻伸 2013. 日本国内におけるハダニクロヒメテントウ (新称) *Stethorus pusillus* (Herbst) の再発見およびキアシクロヒメテントウ *Stethorus japonicus* H. Kamiya との区別点. 日本応用動物昆虫学会誌, 57(1): 47-50.
- Kojima H. and Morimoto K. 2003. A new *Lignyodes* Dejean, a new representative of the genus and the tribe Lignyodini from the eastern palaeartic region (Coleoptera: Curculionidae). *The Coleopterists Bulletin*, 57(4): 383-389.
- 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之 (編著) 1985. 原色日本甲虫図鑑 (III). 500 ページ. 保育社, 大阪.
- 森本 桂 1983. キクイゾウムシ類概説 II. キクイゾウムシ亜科 (1). 家屋害虫, (17/18): 35-41.
- 森本 桂 1985. キクイゾウムシ類概説 III. キクイゾウムシ亜科 (2). 家屋害虫, (23/24): 19-28.
- 大桃定洋・福富宏和 2013. 日本産タマムシ大図鑑. 206 ページ. むし社, 東京.
- 大平仁夫 1992. マルクビクシコメツキとその近似種について. 越佐昆虫同好会々報, (74): 23-35.
- Saitô M. and Young D. K. 2015. Descriptions of a new species of *Ariotus* (Coleoptera, Aderidae) and a new genus and species of Aderidae from Honshu, central Japan, with a key to the genera of Japanese Aderidae. *Elytra, New Series*, 5(2): 453-462.
- Sakai M. 2007. *Gastrallus sasajii*, a new anobiid species from Japan (Coleoptera, Anobiidae, Anobiinae). *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 13(2): 387-390.
- Sasaji H. 1971. *Fauna Japonica, Coccinellidae (Insecta: Coleoptera)*. 340pp., 16pls. Academic Press of Japan, Tokyo.
- Smith S. M., Beaver R. A. and Cognato A. I. 2020. A monograph of the Xyleborini (Coleoptera, Curculionidae, Scolytinae) of the Indochinese Peninsula (except Malaysia) and China. *ZooKeys*, 983: 1-442.
- 末永晴輝 2021. 日本産カミナリハムシ属 *Altica* Geoffroy, 1762 (ハムシ科ヒゲナガハムシ亜科) の概説. さやばねニューシリーズ, (42): 1-11.
- 内船俊樹 2017. 横須賀市自然・人文博物館所蔵 秋山秀雄氏収集 鎌倉市十二所産甲虫類コレクション目録. 横須賀市博資料集, (41): 1-46.
- 上田衛門 2021. 鎌倉市にて三浦半島未記録の甲虫数種を採集. かまくらちょう, (98): 12-13.
- 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝 (編著) 1985. 原色日本甲虫図鑑 (II). 514 ページ. 保育社, 大阪.
- Watanabe Y. 1990. A taxonomic study on the subfamily Omaliinae from Japan (Coleoptera, Staphylinidae). *Memoirs of the Tokyo University of Agriculture*, 31: 55-391.

第3表 内船(2017)の掲載図ならびに解説の変更について(その1)。第1図の解説表。

第1図	解説和名 (YCM-I 番号)	解説変更 (YCM-I 番号)	スケール
1	A11 ミツアアナアトキリゴミムシ(35018)	A11 オオヨツアアナアトキリゴミムシ (35018)	5 mm
2	A24 ルイスハナムグリハネカクシ (35054)	A24 セマルヨツメハネカクシ(35054)	1 mm
3	A49 アオハナムグリ (35102)	A49b ナミハナムグリ (35102)	10 mm
4	—	A49a アオハナムグリ (35103)	10 mm
5	A63 アオグロナガタマムシ (35146)	A64 ヒコサンナガタマムシ (35146)	1 mm
6	A64 マサキナガタマムシ (35150)	A64 ヒコサンナガタマムシ (35150)	5 mm
7	A65 シラケナガタマムシ (35153)	A63 アオグロナガタマムシ (35153)	5 mm
8	A66 クワナガタマムシ (35154)	A64 ヒコサンナガタマムシ (35154)	5 mm
9	A72 ヤナギチビタマムシ (35173)	A75 アカガネチビタマムシ (35173)	5 mm
10	A74 ウメノチビタマムシ (35181)	A76 コウゾチビタマムシ (35181)	5 mm
11	A76 コウゾチビタマムシ (35184)	A75 アカガネチビタマムシ (35184)	5 mm
12	A77 ダンダラチビタマムシ (35200)	A78 サシゲチビタマムシ (35200)	5 mm
13	B2 ミゾムネチビサビキコリ (35214)	B2 イチハンチビサビキコリ (35214)	5 mm
14	B3 クロカネコメツキ	B3 カネコメツキ属の一種	1 mm
15	—	B4b クロツヤハダコメツキ (35217)	5 mm
16	B4 クロツヤヒラタコメツキ (35220)	B5 アカヒゲヒラタコメツキ (35220)	5 mm
17	B9 カバイロコメツキ (35247)	B9 キバネホソコメツキ (35247)	5 mm
18	B10 オオナガコメツキ (35249)	B10 オオクシヒゲコメツキ (35249)	10 mm
19	B12 クリイロアシプトコメツキ (35255)	B12 チャイロコメツキ (35255)	5 mm
20	B13 クチボソコメツキ (35256)	B13 キバネクチボソコメツキ (35256)	5 mm
21	—	B14b ヒラタクシコメツキ (35259)	10 mm
22	—	B14c ハネナガオオクシコメツキ (35267)	10 mm
23	B16 マルクビクシコメツキ (35277)	B17 コガタクシコメツキ (35277)	5 mm
24	B18 アカアシオオクシコメツキ (35285)	B14c ハネナガオオクシコメツキ (35285)	10 mm
25	B23 ノコヒゲフトコメツキダマシ (35302)	B23 スジヒゲコメツキダマシ (35302)	5 mm
26	B40 クロヒゲナガジョウカイ (35787)	B39 クロヒメクビボソジョウカイ (35787)	5 mm
27	B43 ニセヒメジョウカイ (35409)	B43b ヒメジョウカイ (35409)	5 mm
28	—	B43a ニセヒメジョウカイ (35408)	5 mm
29	—	B56b ササジツツガタシバンムシ (35948)	1 mm
30	B66 ヒメジョウカイモドキ (35959)	B66 クギヌキヒメジョウカイモドキ (35959)	5 mm
31	C1 カドコブホソヒラタムシ (35507)	C1 ケナガマルキスイ (35507)	1 mm
32	C4 ルイスチビヒラタムシ (35514)	C04b セマルチビヒラタムシ (35514)	1 mm
33	—	C04a ルイスチビヒラタムシ (35513)	1 mm
34	C24 <i>Lycoperdima</i> 属の一種 (35289)	C24 ホソムネツヤテントウダマシ (35289)	5 mm
35	C26 キアシクロヒメテントウ (35611)	C26 ハダニクロヒメテントウ (35611)	1 mm
36	C29 ツマアカヒメテントウ (35619)	C32 ニセツマアカヒメテントウ (35619)	5 mm

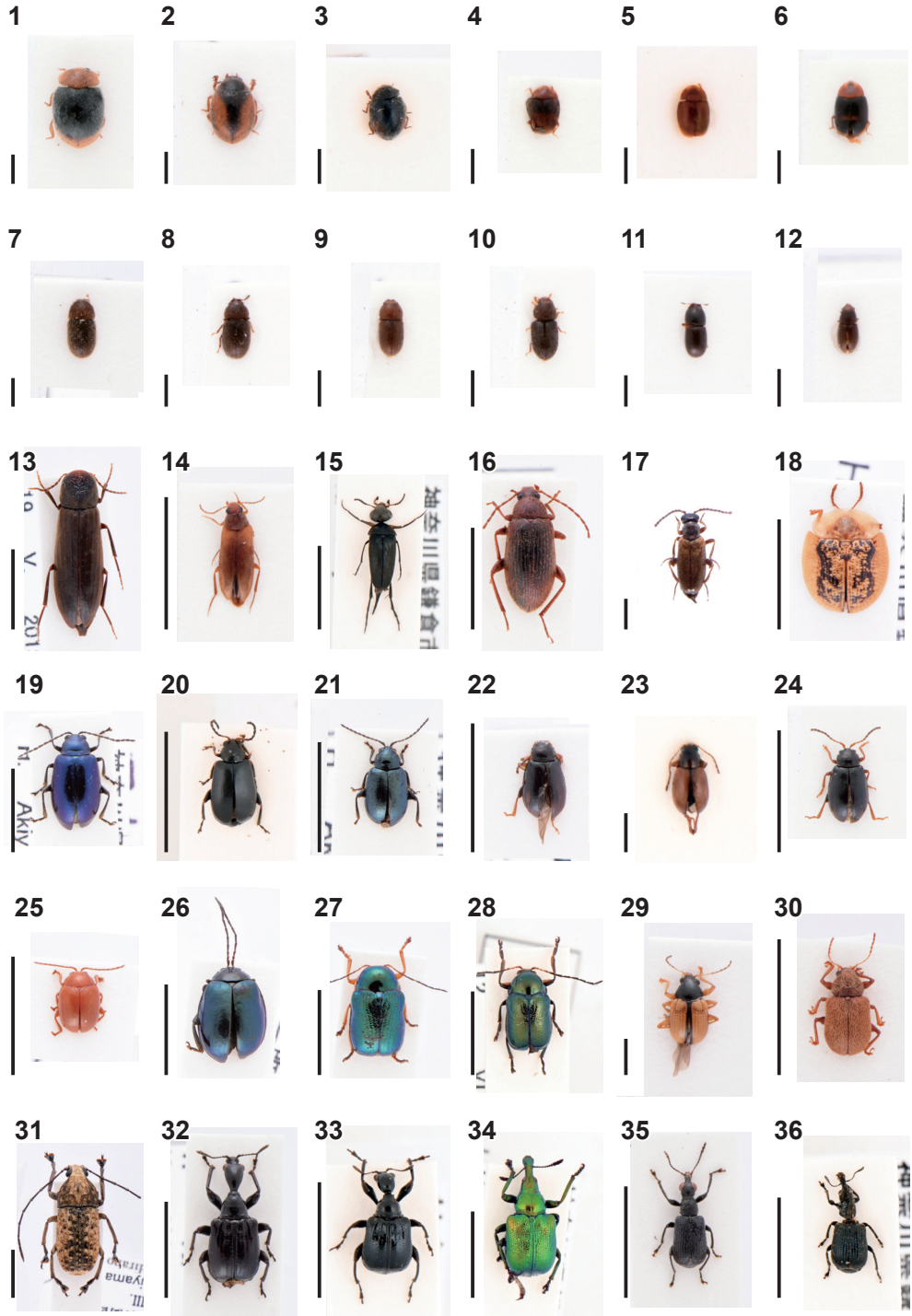


第1図 内船 (2017) の掲載図のうち、解説の変更や追加されたもの (その1)。解説は第3表を参照。

第4表 内船(2017)の掲載図ならびに解説の変更について(その2). 第2図の解説表.

第2図	解説和名 (YCM-I 番号)	解説変更 (YCM-I 番号)	スケール
1	C33 バイゼヒメテントウ (35661)	C33 クビアカヒメテントウ (35661)	1 mm
2	C34 カバイロヒメテントウ (35662)	C34 クロヘリヒメテントウ (35662)	1 mm
3	—	C36b オトヒメテントウ (35666)	1 mm
4	C51 チャイロミジンムシ (35708)	C52a ナカグロミジンムシ (35708)	1 mm
5	—	C51 チャイロミジンムシ (35716)	1 mm
6	C52 ナカグロミジンムシ (35720)	C52b ベニモンツヤミジンムシ (35720)	1 mm
7	C57 オオツツキノコムシ (35739)	C57 キタツツキノコムシ (35739)	1 mm
8	C58 ハバビロツツキノコムシ (35747)	C60 ミツアナツツキノコムシ (35747)	1 mm
9	C59 ミカゲツツキノコムシ (35748)	C59 トウホクツツキノコムシ (35600)	1 mm
10	C60 ミツアナツツキノコムシ (35749)	C59 トウホクツツキノコムシ (35749)	1 mm
11	C64 フタツノツツキノコムシ (35798)	C64 フタツノツツキノコムシ (35798)	1 mm
12	C66 ツヤツツキノコムシ (35962)	C66 ヒメツヤツツキノコムシ (35962)	1 mm
13	C70 オオクロホソナガクチキ (35808)	C70 クロホソナガクチキ (35808)	5 mm
14	C73 フタモンヒメナガクチキ (35819)	C73 ミヤケヒメナガクチキ (35819)	5 mm
15	—	C76b オナガクロハナノミ (32773)	5 mm
16	C78 アオバクチキムシ (35834)	C78 ナミウスイロクチキムシ (35834)	5 mm
17	D28 ホソニセクビボソムシ (35940)	D28 キバネナガニセクビボソムシ (35940)	1 mm
18	E22 ヒメカメノコハムシ (36357)	E22 イノコヅチカメノコハムシ (36357)	5 mm
19	E25 コガタルリハムシ (36363)	E36a カミナリハムシ (36363)	5 mm
20	—	E43a クワノミハムシ (36409)	5 mm
21	E36 カミナリハムシ (36411)	E36b アカバナカミナリハムシ (36411)	5 mm
22	E43 クワノミハムシ (36436)	E43b ガマズミトビハムシ (36436)	5 mm
23	—	E46b カクムネアシナガトビハムシ (36437)	1 mm
24	E44 キアシノミハムシ (36331)	E43b ガマズミトビハムシ (36331)	5 mm
25	E49 キイロタマノミハムシ (36447)	E49 ヒロアシタマノミハムシ (36447)	5 mm
26	E51 ルリマルノミハムシ (36453)	E47 ヒゲナガルリマルノミハムシ (36453)	5 mm
27	E56 バラルリツツハムシ (36472)	E56b キアシルリツツハムシ (36472)	5 mm
28	—	E56a バラルリツツハムシ (36473)	5 mm
29	E67 ヒメキバネサルハムシ (36509)	E67 ツヤキバネサルハムシ (36509)	1 mm
30	E72 カサハラハムシ (36538)	E72 アラゲサルハムシ (36538)	5 mm
31	E77 セマルヒゲナガゾウムシ (36562)	E77 ササセマルヒゲナガゾウムシ (36562)	5 mm
32	F7 ヒメクロオトシブミ (36595)	F10 エゴツルクビオトシブミ (36595)	5 mm
33	—	F07 ヒメクロオトシブミ (36592)	5 mm
34	—	F12b ドロハマキチョッキリ (36604)	5 mm
35	F13 コナライクビチョッキリ (36608)	F13b オオメイクビチョッキリ (36608)	5 mm
36	—	F13a コナライクビチョッキリ (36605)	5 mm

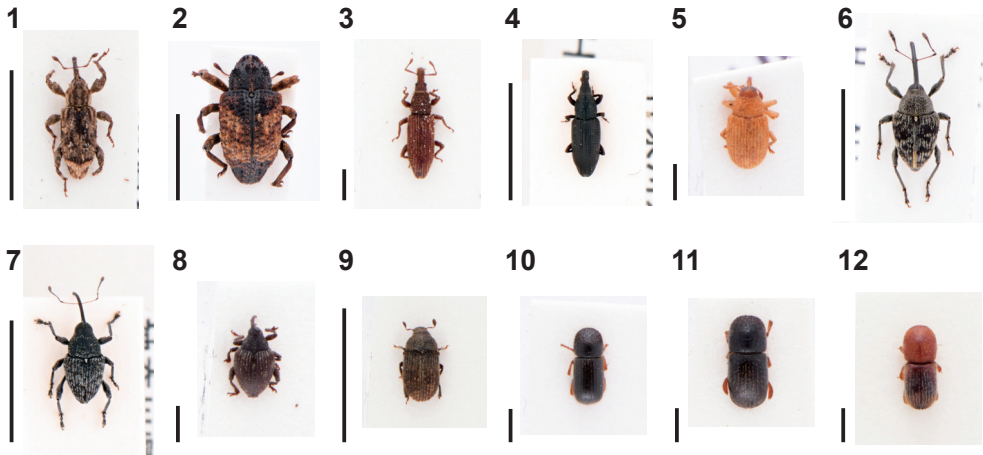




第2図 内船 (2017) の掲載図のうち、解説の変更や追加されたもの (その2)。解説は第4表を参照。

第5表 内船 (2017) の掲載図ならびに解説の変更について (その3). 第3図の解説表.

第3図	解説和名 (YCM-I 番号)	解説変更 (YCM-I 番号)	スケール
1	F22 アトジロカレゾウムシ (36629)	F22 ナカスジカレゾウムシ (36629)	5 mm
2	F33 <i>Cryptorhynchus</i> 属の一種 (36558)	F33 <i>Caenocryptorhynchus</i> 属の一種 (36558)	5 mm
3	F39 ワシバナヒメキクイゾウムシ (35063)	F40 メダカケブカキクイゾウムシ (35063)	1 mm
4	—	F39 <i>Oxydema</i> 属の一種 (36559)	5 mm
5	F44 チビデオゾウムシ (36687)	F44 カスミゾウムシ (36687)	1 mm
6	F51 ヤノシギゾウムシ (36695)	F50 イヌビワシギゾウムシ (36695)	5 mm
7	—	F51 ヤノシギゾウムシ (36694)	5 mm
8	F59 ニッポントゲムネサルゾウムシ (36714)	F59 ミズキトゲムネサルゾウムシ (36714)	1 mm
9	F76 ヒバノコキクイムシ (36776)	F76 ユメノキクイムシ (36776)	5 mm
10	F78 コーヒーキクイムシ (36779)	F78 クロケブカキクイムシ (36779)	1 mm
11	F79 トドマツオオキクイムシ (36781)	F79 アイノキクイムシ (36781)	1 mm
12	F80 ウラジロガシノキクイムシ (36783)	F80 カマクラキクイムシ (36783)	1 mm



第3図 内船 (2017) の掲載図のうち, 解説の変更や追加されたもの (その3). 解説は第5表を参照.